

産業建設常任委員会審査概要報告書

委員長 高岡 宏和

- I 開催年月日 令和6年4月17日(水)
- II 会議時間 午後1時31分～午後2時07分
- III 出席委員等 [出席委員] ◎高岡 宏和 ○田中 勝文 熊木 義城
横田 誠二 山口 泰祐 酒井 善広
上田 武 水口 清志
(◎…委員長 ○…副委員長)
- [議長] 本田 利麻 議長は総務文教常任委員会に出席
- [副議長] ※横田 誠二 副議長は委員として出席
- [説明員] 別紙名簿のとおり
(高林下水道工務課長が公務のため欠席)
- [委員外議員] なし
- [事務局職員] 島田 輝 二口 崇
- [傍聴者] なし

IV 審査の概要

1 付託議案について

議案第75号 令和6年度高岡市一般会計補正予算(第1号)のうち本委員会所管分

議案第76号 令和6年度高岡市水道事業会計補正予算(第1号)

及び

議案第77号 令和6年度高岡市下水道事業会計補正予算(第1号)

以上、予算議案3件については、審査の結果、全会一致で、いずれも原案のとおり可決すべきものと決した。

〈 審査の過程における質疑等は次のとおり。 〉

(以下、質疑・質問内容は○、答弁内容は△で表示)

【議案第75号のうち、被災住宅沈下傾斜対策支援事業費について】

- この事業は、木造住宅耐震改修支援事業の補助対象にならない方を支援することができる素晴らしい事業であると思う。この事業について、想定以上の申請があっ

た場合の対応はどのように考えているのか。また、今後、補助要件の緩和を行う考えはあるのか。

- △ 現時点では700件の申請を想定しているが、それ以上の申請があった場合には、追加の予算措置を検討したい。申請にあたって、被災者の方々から様々な意見が出てくると思うが、要件の緩和についても今後検討していきたい。
- 国・県の補助対象とならないものについて、市単独で対策に取り組むことは意義のあることだと思う。国に対し、市の負担を補填するよう要望していると思うが、今後、交付税措置で国から補填される見込みはあるのか。
- △ まずは国の支援、次に県の支援、そして国や県から支援が受けられないものは、市単独で取り組んでいくというのが基本だと認識している。他市も同様の状況だと思うが、現在、市独自の取組やその取組に対する支援を国に訴えているところであり、現時点で具体的な措置が決まっているわけではない。あくまで現在は支援を求めている段階であり、今後もしっかりと国に要望していきたい。
- 議員としても協力できるところは協力していきたい。(意見)

【議案第75号のうち、液状化対策事業費について】

- 今回、国の補助を受けて衛星画像を活用した調査をするとのことだが、具体的にどのような効果があるのか。また液状化対策について、どのようなスケジュールで進めていくのか。
- △ 衛星画像を活用することにより、発災前後の市全体の状況を俯瞰的に比較することが可能となる。また、市では発災以降、現地パトロールや地域住民の声を通して液状化した箇所を把握しているが、発災前後の比較により、ほかにも液状化した箇所がないか確認したいと考えている。衛星画像は精度が高く、数ミリメートルから数センチメートル単位で縦方向と横方向への変動を把握することができることから、液状化の解析に役立てたい。今後のスケジュールについては、今回、土質調査も含めて発注することとしているが、液状化の影響の大きい地区では個別計画の策定も進めているところであり、道路、下水の工事範囲も含めて地元住民の意見を聞きながら、今後の進め方を検討していきたい。

【議案第75号のうち、被災者引越支援事業について】

- 補助の要件が同一中学校区での引っ越しとのことだが、引っ越した先の学校の卒業式に出席したという話も聞いているため、同一中学校区以外に引っ越ししたケースもあるのではないかと思う。引っ越しの範囲を同一中学校区とした理由は。
- △ 事業の趣旨としては、被災した地域のコミュニティの再生、維持、活性化であることから、同一中学校区としたものである。
- 今後、同一中学校区以外の引っ越しについても補助の対象としてほしいという意見が出てきた場合は、補助対象の拡大も検討していただきたい。(要望)

【議案第75号のうち、土木災害復旧費について】

- 既に令和6年度の工事発注計画表が公表されており、土木関係で34件、道路整備

関係で 25 件が発注予定とされているが、これらの計画的な工事と並行して公共インフラの復旧工事を計画的に進めていく必要がある。一方で、市内の事業者にも限りがあることから、計画通りに復旧工事を行うことができるのか危惧している。発注における基本的な方針はどのように考えているのか。

△ 通常の計画的な工事に加えて、復旧工事を行う必要があるため、事業者の負担が大きくなることが見込まれる。通常の工事についても、平準化を見込んだ発注計画としているところであり、復旧工事についても同様である。四半期ごとに工事の発注見通しを立てているが、受注の状況も見ながら柔軟に見直しを図っていきたい。

【議案第 75 号のうち、公園施設災害復旧費について】

○ 高岡古城公園の復旧を行うとのことだが、従前から進めてきた高岡古城公園樹木管理行動計画や景観再生プロジェクトの進捗に震災の影響はないのか。

△ 令和 6 年度に作業を予定している箇所は被災しておらず、震災の影響はないことから、計画通り進めていきたいと考えている。造園土木協会等の作業については、事業者と話をしながら柔軟に進めていきたい。

○ 桜の季節は終わったが、多くの方が高岡古城公園を訪れていた。被害があった箇所が通行できないなどの声もあったが、高岡古城公園は市民にとってセントラルパークともいえる大切な公園であることから、修復を早めるなど、スケジュールの前倒しをしていただきたい。また、予算が不足するというのであれば、市単独でも進めていただきたい。(要望)

【議案第 75 号のうち、復旧・復興に向けた各種事業について】

○ 一人も取り残さないということを踏まえ、市民への周知方法はどのように考えているのか。

△ いかに広く早くお伝えするかということが肝要だと考えている。市広報誌は配布に時間を要することから、市ホームページや、市公式LINEによるプッシュ通知で案内をするとともに、場合によってはチラシを作成して配布するという事も考えられる。パソコンやスマートフォンを使用できない方もおられるため、紙媒体でお知らせするという事も大事であると考えており、いかにお伝えしていくかを工夫しながら周知に努めたい。

○ 被災者にしっかりと情報が伝わるように様々な方法で取り組んでいただきたい。(要望)

【議案第 76 号及び議案第 77 号のうち、災害復旧事業費について】

○ 既に令和 6 年度の工事発注計画表が公表されており、水道関係で 81 件、下水道関係で 53 件が発注予定とされているが、これらの計画的な工事と並行して公共インフラの復旧工事を計画的に進めていく必要がある。一方で、市内の事業者にも限りがあることから、計画通りに復旧工事を行うことができるのか危惧している。本会議の質疑において、平準化や柔軟な対応との答弁もあったが、発注における基本的な方針はどのように考えているのか。

- △ 都市創造部と同様の考え方で平準化等を行うこととしている。被害が大きかった地域では、道路、水道、下水道、河川など複合的に被害が生じていることから、業者間の調整も図りながら進めていきたい。今後出てくる計画の中では各事業の調整が課題になると考えている。
- 入札参加資格者の等級がCクラスの事業者から、自分たちも復旧・復興に協力したいという思いがあるが、なかなか入札に参加できないという声を聞いている。Aクラス、Bクラスだけでなく、Cクラスの事業者も含めて、市内の事業者が一丸となった体制で迅速な復旧・復興を図っていただきたい。(要望)

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

産業建設常任委員会 当局説明員（17名）

産業振興部長	式 庄 寿 人	都市創造部長	赤 阪 忠 良
産業振興部次長	長 久 洋 樹	都市創造部技術政策監	梶 本 敏 規
産業振興部次長	須 田 稔 彦	都市創造部次長	伴 孝 宏
産業振興部参事（兼務）	伴 孝 宏	都市創造部次長 都市計画課長	山 森 久 史
観光交流課長	野 村 岳 人	景観みどり課長	田 口 昌 子
		土木維持課長	中 澤 俊 一
		建築政策課長	氷 見 和 人
		上下水道事業管理者	黒 木 克 昌
		上下水道局次長	寺 井 義 則
		総務課長	小 久 保 光 章
		水道工務課長	片 岡 利 行
		下水道工務課長	高 林 隆
		施設維持課長	村 栄 正 英